

ひとりひとりが、自分らしく暮らしてゆける環境と地域づくりへ



活動のご案内

はじめに Introduction

「医農福」連携ネットワークが実現する共生社会を目指して

■ 活動の社会的背景

人口減少、超高齢化社会を迎え、日本社会には様々な課題が山積しています。
こうした課題は、これまでの延長線上の制度・政策ではうまく解決できないことがほとんどの状況です。

近年、既存のモデル構造から脱却したイノベーティブな取り組みが必要とされており、

「困りごと」と「困りごと」を組み合わせ、共に解決してゆくという新たな取り組みが求められています。

■ “農業振興”地域独自の課題

都城市の基幹産業は、農業とそれに隣接する関連事業が中心となっています。

現在、同市の就農人口は、5,867人に対し、65歳以上の農業従事者は3,906人、**農業従事者の約67%が60歳以上の高齢者(2015年『農林業センサス』)**となっています。

この多くの**農業者は、高齢の夫婦あるいは単身者**であることが多く、**認知症の早期発見や初期対応が遅れがち**であることなど、福祉や医療につながる課題も顕在化しているのです。

高齢者増による介護保険制度の行き詰まり、肥大する医療費の問題など、既存の制度だけではその解決の糸口は見つけにくく、おおきなパラダイムシフトが必要な状況です。

このような地域社会の現状に対し、それぞれの**業態や立場を越境した相互の「困りごと」解決のためのソリューションの創設が急務**です。

■ 都城三股農福連携協議会が目指すもの

我々、都城三股農福連携協議会は、新たな「農福連携」事業の自走化のシステムを構築し、**多産業多業種との横断的な連携**をもって、**独自の地域相互支援基盤を形成**し、農業振興地域における「地域課題」の解決と共に、**共生社会の実現**を目指します。

都城三股農福連携協議会
代表理事



岡元一徳 | Kazunori Okamoto
一般社団法人リベラルハーツ

父の急逝と母親の認知症発症をきっかけに、25年振りに東京よりUターン移住。母親の介護を通じて、高齢農業者の認知症から連鎖する地域課題を知る。

農業振興地独自の課題解決のために、発起人となり都城三股農福連携協議会を設立。

本協議会の全事業のプロデュースと事業責任者として、協議会活動を主導している。

活動理念 Philosophy



活動理念 | Philosophy

ひとりひとりが、自分らしく暮らしてゆける環境と地域づくりへ

我々は、認知症高齢者の社会的役割とQOL向上のための環境づくりを目指し、地域の多産業多業種による横断的な連携により農福連携事業の推進・展開によって、地域共生社会の実現へ寄与することを目的とする。

行動指針 | Guidelines

高齢認知症患者の治療やリハビリに役立てること

相互に課題解決を目指すこと

相互に有益であること

同業種に波及させること

地域に波及させること

事例をつくること

情報を発信してゆくこと

地域を絡めること

異業種他産業を絡めること

地域を越えて連携すること

組織概要 Organization

構成事業体と連携事業体

農業者が主導し、医療機関、介護事業者とのアライアンスを組み、**地域ではじめての農福連携協議会を2017年4月に設立**しました。

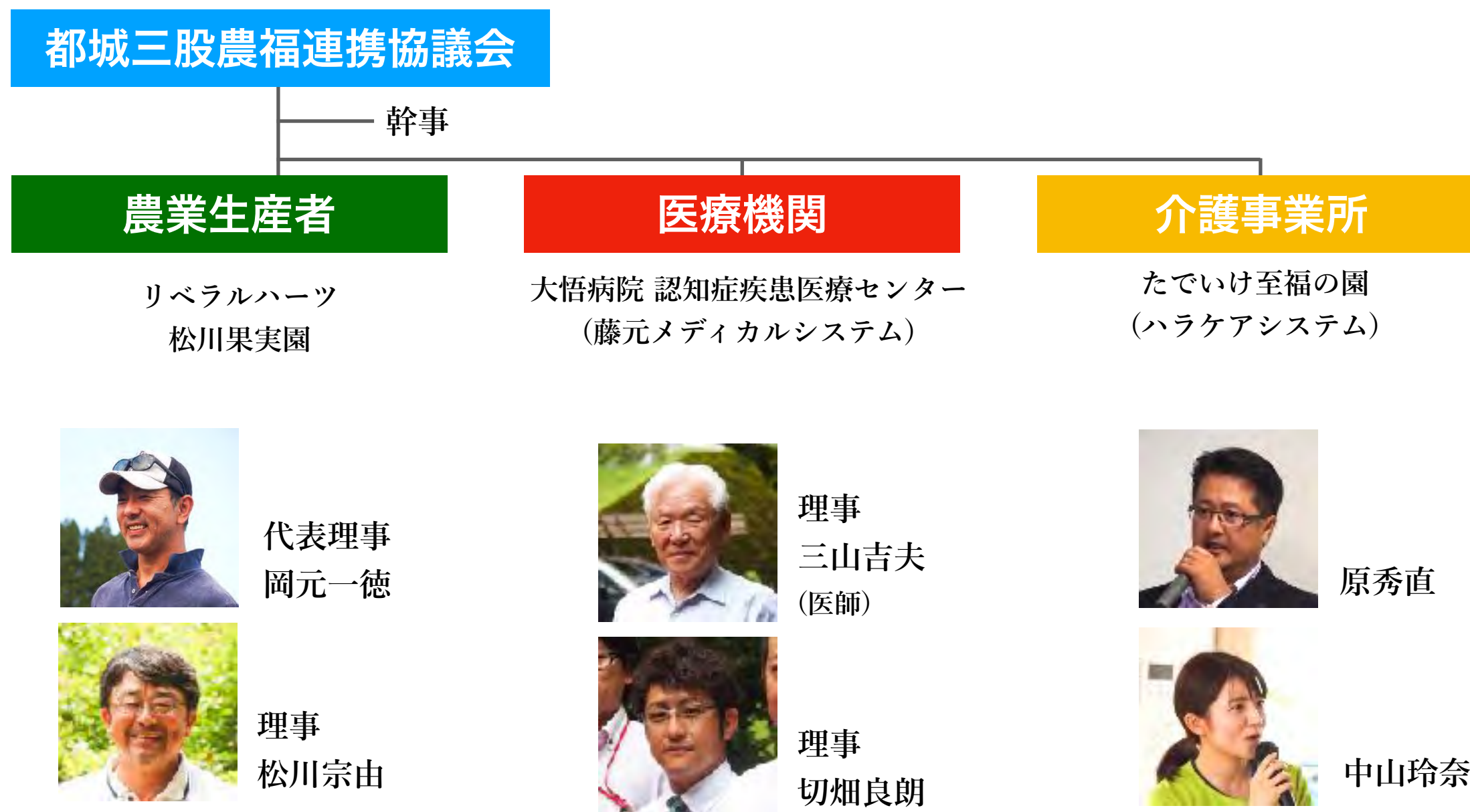
「**医農福**」による協議会は、全国でも希有な事業体です。

地域内での産業を超えた横断的な連携、政府機関への研究のフィードバック、都市部との事業連携などにより取り組みを推進。

認知症高齢者の予防、維持、改善などに役立てるための活動を推進しています。



組織体制 Organizational Structure



事業内容 Our service 1

| 協議会が地域で推進する4つの事業

協働農園の運営

コミュニティ農園を病院、介護施設に設置。
地域のサードプレイスとして、農福リハビリやイベントで活用します。



農福製品の製造、販売

農福リハビリで、副次的に生産された作物や加工製品を販売します。

農福リハビリの提供

軽度の農作業による認知機能改善ケア・プログラム
作業工程に心理技術を加えたプログラムです。

啓蒙イベント・勉強会の開催

情報発信、啓蒙のため市民参加型のイベントを開催、
当事者と家族が市民と交流を行います。

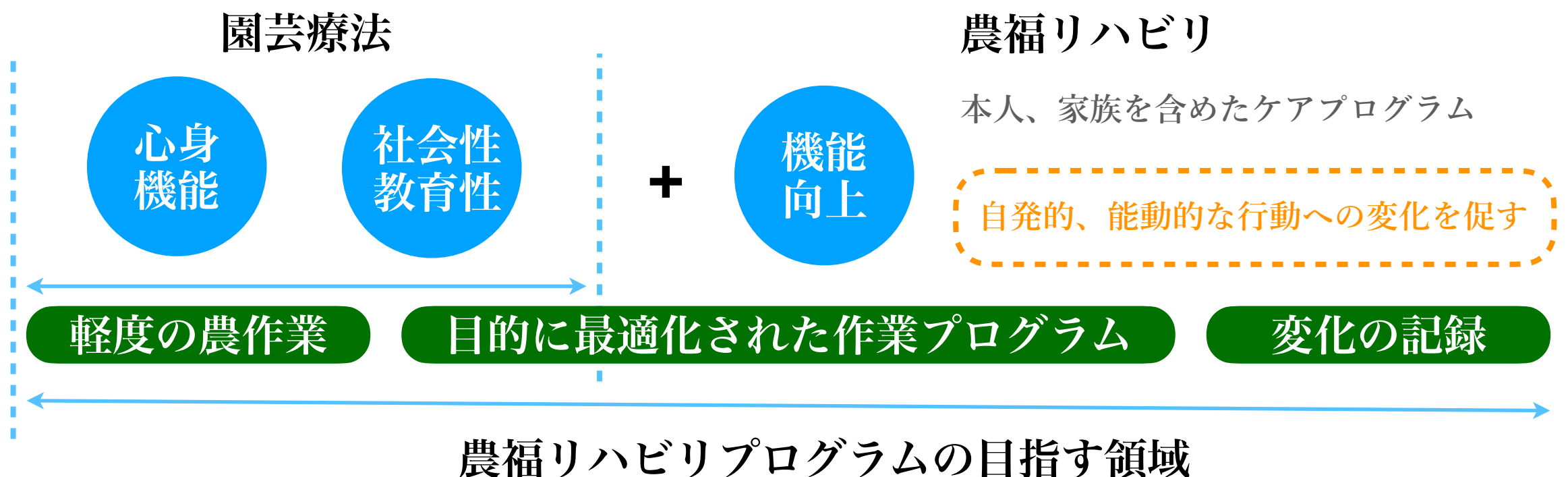


農福リハビリとは About Nou-fuku therapy

軽度の農作業によるリハビリテーション・プログラム

当プログラムは、軽度の農作業を通じて心身機能の賦活、維持、回復を行うと共に参加者相互の交流による関係性を構築し、穏やかな生活の実現をめざすプログラムであり、能動的に自らの意思で生活するためのモチベーションを維持、定着させQOLの向上によりそれぞれが納得のゆく人生を過ごせることを目的とする。

1. 身体機能の回復・維持や感情の安定による穏やかな生活の実現
2. 参加者相互の人間関係の構築と交流技能の向上
3. 自らの達成感、充足感と農作業の習慣化による能動的な精神安定



事業内容 Our service 2

令和4年 4月より、東京都健康長寿医療センター研究所および、板橋社会福祉協議会(いたばしボランティアセンター)との契約を行い、いたばし総合ボランティアセンターにて実践中です。

協議会が都市部で推進する事業

都市型農福連携と地域型農福連携のコラボレーション

軽度の農作業による認知機能改善ケア・プログラムを都市部でも展開。

自然薯栽培 × 認知機能改善で、多様な背景を持つ当事者に対応しています。



事業体制 Business structure

地域独自の最適な連携

これまで運用した農福リハビリの成果・結果を踏まえ、**各事業体ごとの機能を役割**を明確にし、それぞれの専門性を発揮することで、**地域独自の地域包括ネットワークを構築、連鎖的、有機的に稼働**することで、共生社会の実現を目指す。

機能：医師による症状の判断、各セラピストによるサポート、地域介護環境へのリレーション

役割：残存能力を見極め、フレイルから認知症にいたるまでの経過を緩やかな進行にするためのフォローアップとエスカレーションを行う。

医療

地域における認知症医療のゲートウェイ

農業

地域特性を生かした環境とプログラム

機能：ケア・ファームの構築により住み慣れた環境で暮らすための「役割」と「生きがい」を提供

役割：・農園型デイ・サービスの提供(日本版ケア・ファーム)

・機能脳科学を応用した

農福連携の新事業 ケア・ファームプログラムの提供

・古民家・耕作放棄地の活用

・「農福ケア・ファームトレーナー」

としての人材育成

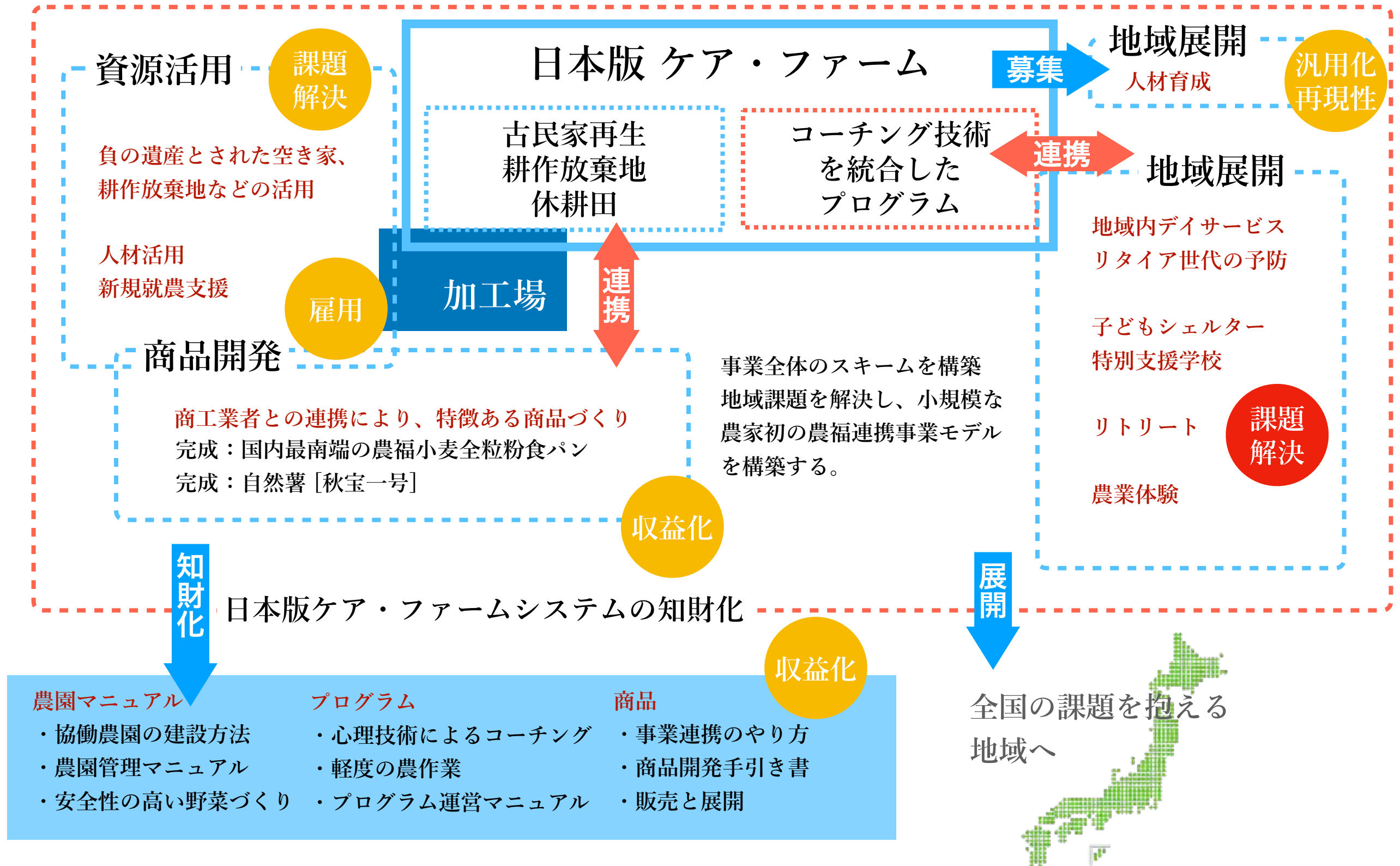
福祉

終の住処としての居場所とサービス

機能：「生きがい」としての農業との接点を創出、レクリエーション

役割：身体機能が低下する中において、心の安住としての農業との接点を創出する

事業イメージ Business structure



活動履歴 1

2017年

都城三股農福連携協議会設立



みんなの畑（大悟病院）
小麦播種+komugi Bootcamp開催

第一回「農福連携カンファレンス」開催

ノウフク青果店オープン

4月

5月

7月

9月

11月

12月

西東京農地保全協議会
との連携事業開始

「Tokyo自然薯Project」がスタート

「わらいのひろば」
(農園型オレンジカフェ)スタート
以降、2回/月の定期開催

MRT宮崎放送
「情報ライブトコトン」にて、農福連携特集が放送

わらいの村 もちつき大会開催

第二回「農福連携カンファレンス」開催



活動履歴 2

2018年

農福リハビリ：ノウフク青果店



農福リハビリ：ブルーベリー収穫



農福大豆、播種



国内で初めて、
農作業による認知症改善の
エビデンスを採取



第一回「農福連携リハビリ」実施



農福リハビリ：わらじづくり

農福リハビリ：子どもたちの慰問



農福小麦、収穫



農福ワークショップ：そばうち、ピザ作りなど



「農福リハビリ」成果発表



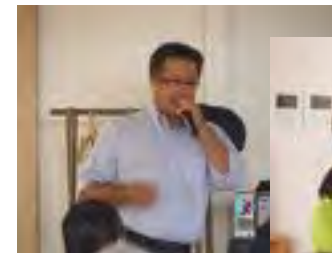
活動履歴 3

2019年

農福リハビリ- 春期



第一回 気軽に認知症勉強会 Vol.1
「農福リハビリのための認知症講座」



農福製品 都城産農福小麦
全粒粉食パン 発売

5月

6月

9月

10月

11月

2月

農福小麦、収穫



農福リハビリ- 秋期



JNN九州沖縄ドキュメンタリー
「笑顔が咲く畑 ~人生を見つめる時間~」



農林水産省
農林水産制作研究所 視察



第二回 気軽に認知症勉強会 Vol.2
「最期まで地域で暮らすための認知症講座」
コロナウイルス感染症のため中止

政府政策へ反映(令和4年度より開始)

ユニバーサル農園の開設とその支援について

- ユニバーサル農園とは、身近で農業に参画できる市民農園（農業体験農園）の活用を通じて、多世代・多属性の交流・参加の多様な場を農業を通じて生み出すとともに、生きがいづくりや精神的な健康の確保等の様々な社会的課題の解決にも資することを目的とするもの。
- ユニバーサル農園を通じて、多世代・多属性の参加者が、農業の持つ様々な機能に触れることで、その価値が広く認知されるとともに、将来の農業現場での雇用・就労を見据えた農業体験等の提供を通じた農福連携の推進や、農園の導入促進による農地の利用拡大も期待される。

ユニバーサル農園の開設イメージ

